

提案①「特別支援学級における道徳教育～『自立活動』の一環として」

村田真友子(横須賀市立不入斗中学校教諭)

○概要

- ・道徳科授業を中心とした、特別支援学級に在籍する生徒に一人ひとりに応じた支援
- ・教材「心と心の握手」の授業実践

○勤務校における支援学級の重点項目⇒「コミュニケーション力の育成」

○研究の背景にあるもの

- ・インクルーシブ教育にも力を入れているため、生徒の交流教室での学習も積極的である。
- ・一人ひとりの生徒がより充実感、達成感を感じられるように、自立活動の充実を図る。
- ・道徳は自立活動の目標を達成するうえでも親和性が高いと考える。

○子どもつけさせたい力

- ・道徳…日常・集団生活に必要な内容項目に注目
- ・自立活動…6つの区分から「人間関係の形成」「人との関わり」の区分に注目

○今回の仮説

- 道徳科授業を要として自立活動の目標を達成できるのではないかな。
- ・その上で道徳科の特性、生徒の実態を踏まえながら個に応じた目標、支援、評価が必要である。

○化説を実証していくための手立てや工夫

- ・道徳科授業を学級経営とつなげる。
- ・毎回の道徳科の授業において、注目する生徒を決めて、その生徒に合った授業を考えていく。
- ・小学校の教科書の教材を扱い、シンプルなストーリーの中に込められた学びの本質に迫るようにする。

○授業実践「心と心のあく手」(小学校3学年教材)

(授業のねらい)


- ・「親切とは何か？」を考えることを通してまわりの仲間の意見に耳を傾けさせたい。
- ・「実際に相手に何かをする親切」だけでなく「見守る親切」もあることに気づかせたい。

(あらすじ)

- ・主人公は重たそうな荷物をもっているおばあさんに、「荷物持ちましょうか？」と声をかけたところ「結構です」と断られる。後にそのおばあさんはリハビリの一環として荷物をもっていたことを知る。別の日に主人公

§ 本日の流れ §

1. 本校の特別支援学級(6組)の現状
2. 道徳の内容項目と自立活動の内容について
3. 授業実践における生徒の心情変化『心と心のあく手』



1. 本校の特別支援学級(6組)の現状

§ 不入斗中学校 学校教育目標 §

明るい・正しい・仲良い

～コミュニケーション力の育成～

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き 不入斗中学校が好き

【重点取り組み】

- (1) 居場所のある安心感
- (2) 「自立活動」の充実
- (3) 保護者との連携

「道徳教育」および「道徳科授業」の充実

はおばあさんに再び出会い、どのような行動をすればよいか立ち止まり考える。

(生徒の反応) ※今回の授業で教師が注目していたのは生徒Aである

生徒B「私は前のような声はかけないが、別の声かけをする」

生徒A「主人公は前回おばあさんに断られたことを引きずっていないか？」

生徒B『荷物持ちましょうか?』とは言わないが、『頑張ってください』など励ますような声かけをすればよい」

生徒A「たしかに。励ましたいという気持ちは一緒かもしれない。」

(生徒Aの変化)

- ・まわりの友だちの意見に耳を傾け、自分の考えを変えられたことはこの授業での大きな成長だと考えることができる。
- ・生徒Aの振り返りでは、入学当初の自分と比べ、相手の意見を聞くことの大切さに気付けるようになったこと、気持ちのコントロールや人との適度な距離感を保つといった内容が書かれていた

☆このように一人の生徒を中心に一年を通して、道徳科授業を通していくことで一人ひとりの成長を支援している。

○質疑応答

(参会者① 感想・質問)

- ・通常学級でもインクルーシブな考え方はこれからも必要になってくるだろう。
- ・学級における自立活動の今後として、どんな子どもたちの姿につながってほしいと考えているか。

(提案者 回答)

- ・生徒が社会に出た時に、他者の多様な考え方を受け止められるように、まずは小さな集団の中で色々な考え方を理解できることから始め、将来につなげていきたいと考えている。
- ・今回の実践のように、支援学級では自分の意見が発言できるが、交流学級ではなかなか言えないこともある。まずは相手の意見を聞き、自分の考えをもてる環境をつくっていききたいと考える。

(参会者② 質問)

- ・今回の授業における、生徒の目標をもう少し詳しく教えてほしい。

(提案者 回答)

- ・自分の中に「親切」をきちんともっているが、その親切は「相手に押し付けるものではないこと」に気づかせたかった。

(参会者② 質問・感想)

- ・この授業を通して生徒Aの行動面における変化はあったか。
- ・自立活動における「個の教育指導計画」と道徳の「教科としてのカリキュラム」は異なる部分があるので互いが融合されるような考え方が大切である。

(提案者 回答)

- ・この授業を機に、相手の意見を聞きながら、自分の考えを客観的にみられるようになってきたという変化は感

じられる。

(参会者③ 質問)

- ・抽出生徒は毎回どのように決めているのか。

(提案者 回答)

- ・在籍生徒の人数分の個別の指導計画があり、今回はこの生徒に注目しようと支援級担任3人で話し合っ
て決めるようにしている。
- ・一人の生徒の授業計画を立てていくことで、それ以外の生徒の反応や支援も同時に浮かんでくるため、クラス全体の授業のデザインも決まってくるといえる。

(参会者③ 感想・質問)

- ・一年間の中で、一人ひとりの生徒が主役になれる授業があるのは、とても良いと感じる。小学校の通常級でもそのような授業デザインのやり方は試してみたいと感じた。
- ・ちなみに、今回の授業をする時に、生徒には「自立活動をやるよ」「道徳をやるよ」どちらで伝えているか。

(提案者 回答)

- ・「今から道徳をするよ」と伝えている。
- ・自立活動の内容の目標を達成するために、道徳を取り入れていると捉えていただければと思っている。

(参会者③ 感想)

- ・今回のような、「揺れ動く心の葛藤がある課題」を設定することで、一年間を通しての積み重ねられた力は大きなものになっていくと考える。

(提案者 回答)

- ・日常から何でも話せる学級の雰囲気、何を言っても安心な雰囲気づくりに努めている
- ・これは道徳の授業に限らず、学級経営全般において大切にしている。
- ・子どもたちが言ったことを、否定せず、「そういう考え方もあるんだ」とまず受け止めるようにしている。

(参会者④ 感想・質問)

- ・授業で注目する生徒を決めておくことは、とても良いと思う。抽出生徒以外の生徒の支援と評価はどのように行っているか。

(提案者 回答)

- ・〇〇さんはこういった答えを考えるのではないかなといった想定は担任同士で話し合うようにしている。

(参会者⑤ 質問)

- ・学級全員の評価を同時にしていくことは可能であるか。

(提案者 回答)

- ・現段階で2人、3人と見取ることができる。徐々に見取る生徒の数を増やしていくようにしている。

(参会者⑥ 感想)

- ・大学でも学生一人ひとりに応じた支援が必要だと感じている。中学校の現場でここまできめ細かに個に対応していることが素晴らしいと感じた。

(提案者 回答)

- ・「みんな違ってみんないい」で完結するのではなく、社会でも子どもたちが活躍できるような力を授業の中で身に付けさせたいと考えている。

(参会者⑦ 感想・質問)

- ・本校の特別支援学級では小学校1～3年生の教材や、NHK for schoolの動画教材などを活用している。今回の「心と心のあく手」以外にどんな教材を使っているか。

(提案者 回答)

- ・「橋の上のおおかみ」「お母さんの請求書」といった定番教材を扱うようにしている。
- ・1～3年生全員で学習をするので、教材が被らないように配慮をしている。

(参会者⑧ 感想・質問)

- ・教材の内容が難しく、内容を把握することで精いっぱいなことがある。どのように対応しているか。

(提案者 回答)

- ・まず、教材文を読んで、登場人物の把握をすることから始めることもある。
- ・教材としては生徒全員が考えられる教材を扱うようにしている。
- ・生徒の事態に合わせて、できるだけ具体的な場面が書かれているような教材を選ぶようにしている。

(参会者⑨ 感想)

- ・自立活動の「経験カリキュラムとしての具体的な内容の理解」と道徳科としての「教科カリキュラムの価値理解」この接続を考えると教材の学年を下げればいいというわけではなく、教材をきっかけとして、そこから子どもたちとテーマについて考えていく必要がある。

提案②「児童による道徳的価値について深く考えるための協働的な議論を生み出す道徳科授業
-GLFT（対話学習ファシリテーションツール）の活用を通して」

山口明洋（浦安市立南小学校教諭）

○概要

- ・ GLFT という思考ツールを使った対話の活性化について提案

○研究の背景

- ・ 指導要領解説において、考え議論する道徳が謳われているが、実際のグループの話し合いでは、一人ひとりが自分の意見を一方的に伝えるような形になってしまっていないか。
- ・ 市のアンケートでも、「発問」に次いで「話し合いの改善」の工夫が挙げられている。
- ・ 話し合いの中の「拡散」や「展開」の工夫が必要である。

○GLFT とは

- ・ ファシリテーションの要素を取り入れた思考ツール。
- ・ 話し合った意見をひし形の外側から内側に向かって書いていくことで、内容を深めていく。
- ・ GLFT の効果検証とこのツールを生かした授業づくりについて今回提案していく。

○研究仮説

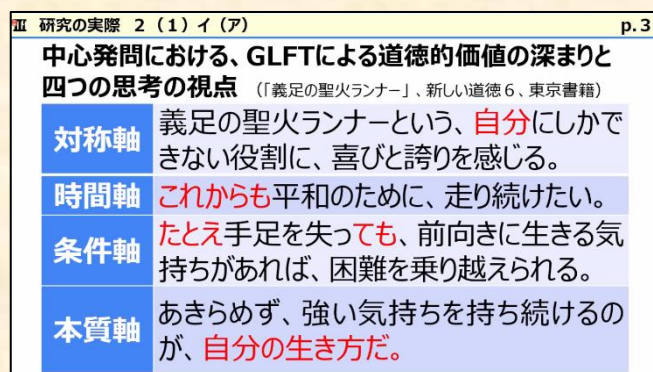
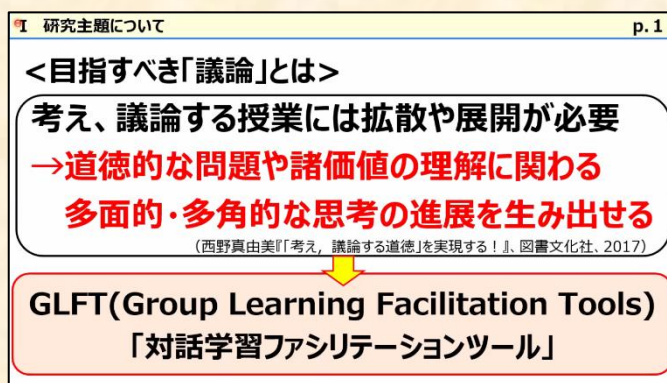
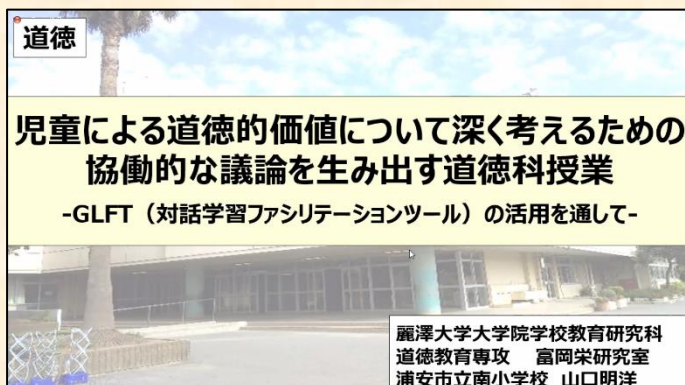
- ・ 中心発問に対して GLFT を取り入れた話し合い活動を設定することで「協働的な議論」を生みだし「道徳的価値」につながるのではないかと。

○考え方の4つの軸

- ・ 対称軸
 - ・ 時間軸
 - ・ 条件軸
 - ・ 本質軸
- 話し合いの際、この4つの軸を子どもが意識することで、多面的・多角的な思考へとつながる。
4つの軸に目を向けさせる補助発問を考える。

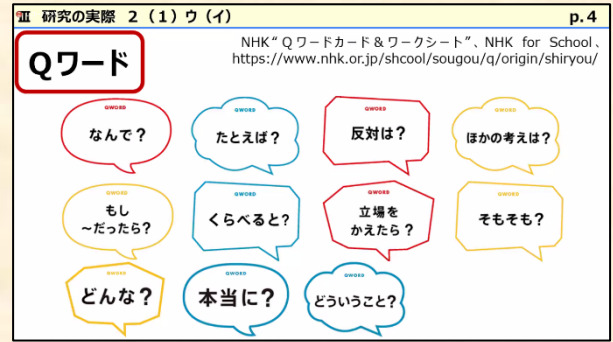
○授業の中心発問について

- ・ 授業において、どのような話し合いを求めているか、教師が明確にしておく必要がある。
- ・ 中心発問における児童の反応例を指導案に記載する。
- ・ 主人公の「道徳的価値」に対する気づきや決断はどこだったかを考えさせる発問を設定する。



○GLFT の効果的な活用について

- ・ツールのひし形の中央を空白にする。友だちの考えを聞いて深まった自分の考えをひし形の中央に書く。
- ・GLFT は特活などで合意形成された考えを中央に書くことが多いが、道徳科における納得解は合意形成とは異なるものである。そのため今回、児童個人の納得解を書く場所も確保するようにしている。
- ・「何で」「例えば」「立場を変えると」といった Q ワードを用いることで話し合いの活性化につなげる。



○授業実践

(対象・機関)

- ・5、6 年児童
- ・各学年 8 回の授業を行う。

(授業の流れ)

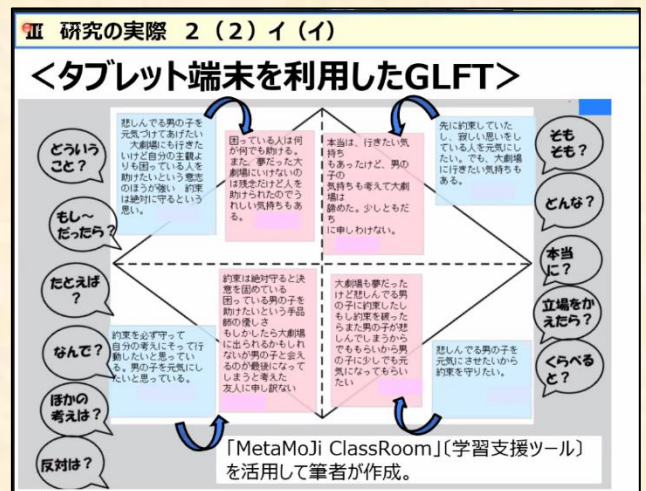
- 中心発問に対して児童は「分析的思考」を働かせる。
- GLFT を用いた話し合い活動では 4 つの軸を通して考えさせる。
- 協働的な議論を生み出す。
- クラスで共有する。

(手立て・工夫)

- ・大きめの画板に GLFT のツールをセットし、全員で考えを共有する場づくりをする。
- ・付箋を用いて、考えの変容を分かりやすくする。
- ・青付箋…初めの自分の考え、赤付箋…新たな考え方

(コロナ禍における GLFT 活用の新しいアプローチ)

- ・机にパーテーションが設置されたため、画板等、大きなものを机の中央においての共有が難しい。
- ・そこでタブレット端末を使った GLFT シートを作成した。
- ・デジタルの付箋を使うことによって、文章量を気にせず付箋に文字を書き込むことができる。
- ・先ほど紹介した Q ワードも付箋の横に常時、表示しておき考えを書く時に、移動したり、張り付けたりことができる。
- ・青の付箋に初めの自分の考えを書き、「何で」「立場を変えると」といった Q ワードのアイコンを移動しながら友だちと交流し、さらに考えたことを赤の付箋に書き込む。
- ・教師はタブレット上で、各グループの話し合いの様子を把握していく。



(使用教材について)

- ・ A、B、C、D の4つの視点に偏りがないように選択した。
- ・ そのなかでも4つの軸の広がり、深まりが生まれやすい教材を選ぶようにした。

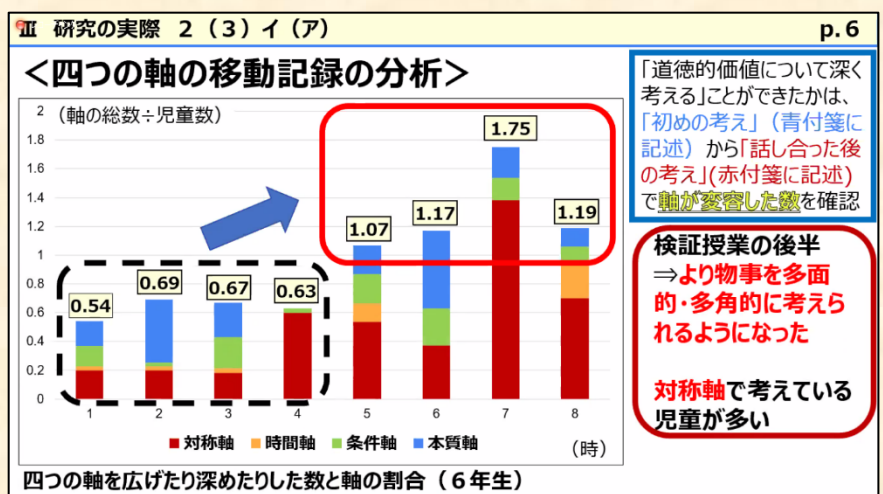
(成果)

- ・ 学習集団における、他者との関わりを深める上で有効であるとする。

・ はじめと終わりの考えから、児童の4つ軸における変容が見られた。4つの中でも対称軸(別の立場からの考え)に対する変容が最も大きかった。逆に本質軸の変容はあまり見られなかった。

- ・ 「なんで?」「どんな?」といった根拠を求めるQワードは、話し合いが苦手な児童にも使いやすいといえる。

「立場をかえると」といったQワードは対称軸の移動にもつながっていく。



(児童の反応)

- ・ GLFTを用いることで新しい対象の視点を得たり、Qワードを使う良さに気づけたりする児童が出てきた。
- ・ 話し合いや自分の考えをもつことが苦手な児童にとっても、これからの話し合いに生かすヒントを得ることができた。
- ・ もっと深く話し合う時間がほしいと思う児童もいた。

(テキストマイニングからの考察)

- ・ 授業を通して、話し合いに関する、消極的なワードが減り、「参考に」「分かる」といった単語が増えた。また「班」「友だち」といった他を意識した単語が増えた。

(今後に向けて)

- ・ GLFTでタブレット端末を活用することは自分の考えを可視化する上で有効であり、相手にも取り入れやすい。
- ・ 課題としては、準備や操作、意見の整理に時間がかかるため詳細なタイムマネジメントが必要である
- ・ 4つの視点の移動を発揮していくために、より綿密な発問の構成が必要である。

○質疑応答

(参会者① 感想・質問)

- ・ 対称軸、時間軸、条件軸、本質軸の4つの軸の中で、本質軸の捉えが一番難しいと感じた。例えば、子どもの感想で「もし未来だったら…」(時間軸)、「相手だったら…」(対象軸)、「自分だったら…」(本質軸)といったように使われる言葉によって、軸を決めていると言っていたが、「自分だったら」という言葉には本質軸だけでなく、対称軸としての要素もあるのではないと感じている。

(提案者 回答)

- ・ その点に関しては授業者として迷う部分があった。子どもの感想を読んで、4つの軸のどれに当てはまるか、他の先生と確かめたところ、その整合性は6割程度だった。つまり、「4つの軸のとらえ方」は人によって異なる

るといえる。

(参会者① 感想)

- ・提案者の話を聞いていると、教材の内容から飛び越えて、内容を自分の生活に関連させているものを、本質軸として捉えているように感じる。
- ・特活の時間に用いられる思考ツールということだが、ひし形の内側が合意形成ということになる。道徳の場合合意形成ではなく納得解であるから、その解釈が少し変わってくる、内側に納得解を書く場合、内側に行けばいくほど悩んだり、迷ったりする考えが書かる場合もあるのではないか。

(参会者② 感想・質問)

- ・本質軸を広げるためにどのようなことに気をつけているか

(提案者 回答)

- ・授業での発問を登場人物について考えさせるのではなく、「自分なら～」という聞き方にした方がよいと考えている。
- ・中心発問に対する答えを共有する際、考え方の軸が広がっているグループを見つけ、取り上げるようにしている。
- ・本質軸は教師が考えさせたいポイントを決めておき、それに向かうための補助発問も考えるようにしている。
- ・教材の特質に合わせて発問を考えるようにしている。

(参会者② 感想)

- ・本質軸に迫るために中心発問の中に「あなたなら～」という言葉を入れた方がより本質に迫れるようも感じた。

(提案者 回答)

- ・内容理解に時間がかかる教材もある。導入は20分以内に収めたい。
- ・相関図などで内容把握の時間を短縮するようにしている。

(参会者③ 感想)

- ・ツールを使い、思考の変容を見取るものであるが、話し合いの後に、子どもの記述量が増えることは自然なことではないか。また「GLFT」「Qワード」「4つの軸」の中の何が相互に関連したのか分からない。自分が考えた答えを書いたうえで、GLFTには最終的に自分の納得解を書いているということは、考えが共有されたのではなく、自分の中で意思決定しているのではないか。
- ・他の授業でもアンケートを取り比較することでより GLFT の効果が検証されると考える。

(参会者④ 感想・質問)

- ・タブレットで思考ツールを使って話し合いをしていく教師の場づくりが大変勉強になった。グルーピングをする際、皆が同じような考えに偏ったり、色々な意見に分かれたりすることがある。どのようにグループ分けをしているか。

(提案者 回答)

- ・今回6年を3クラス、5年2クラスの計5クラスで検証した。そのためその学級の生活班でグループ編成は行

なった。同じ意見の児童同士だと話が停滞している時は、そういうグループには補助発問をして考えを広げるようにした。これからも子どもたちの思いに合った授業プランニングをしていきたい。

(参会者⑤ 感想・質問)

- ・4つの軸は子どもの発達段階に依存するのではないか。低学年は直感的な思考が多いので、役割演技や動作化などを取り入れる方がよい。中学年で、時間軸、対称軸といった話し合いはできそうである。高学年では本質軸による話し合い…と子どもに合わせて軸を徐々に取り入れても良いのではないか。

(提案者 回答)

- ・今回5、6年生が対象だったので4つの軸を取り入れることができたと思う。低学年、中学年に今回の提案を取り入れる手立てをこれから考えていきたい。

(参会者⑥ 感想・質問)

- ・話し合い停滞した時こそQワードを活用してみてもどうか。授業場面でのQワードの活用についてももう少し詳しく教えていただきたい。

(提案者)

- ・もともと、話し合いが苦手な子が多かったので、Qワードは効果があったと考える
話し合いが得意な子は11個のQワード以外のたずね方を生み出していた。またQワードはそのままで活用できないので、アレンジしながら質問すること慣れていかないといけない。

(参会者⑥ 感想)

- ・Qワードを選ぶ判断力というものも協働的な学びを生み出す上で大切だと感じた。

(提案者 感想)

- ・以前担任をしていた児童だったので、今回の提案によって意見を言えるようになってきた変容がみられたことがよかったと感じている。